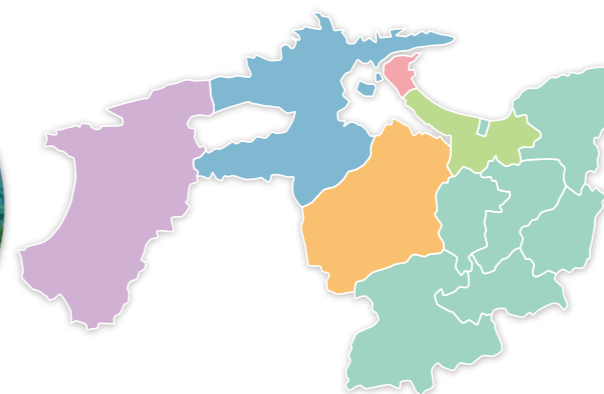
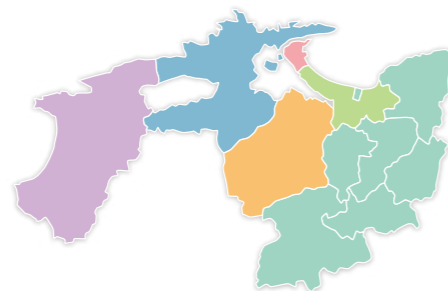


中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン

概要版



中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン



だんだんサミット
中海・宍道湖・大山圏域市長会

だんだんサミット
中海・宍道湖・大山圏域市長会



ウニバくん



中海・宍道湖・大山圏域の力を結集

●中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン策定にあたって

本圏域は、古くから地理的・歴史的なつながりがあり、豊かな自然と歴史・文化を背景に、恵まれた生活環境や、充実した都市機能を有する山陰の中核的な都市圏として発展してきました。産業や交流も盛んで、日本海側の都市圏における高い潜在能力を有しています。この潜在能力を有効に活用し、本圏域が連携して一体的にさらに発展していくためには、構成各市が有する特徴的な資源や優位性を活かした連携を推し進める、共通の目標と方向性が必要です。

本ビジョンは、圏域内で活動する住民・NPOや各種団体、企業、行政などの各主体が共有する圏域の将来像を示し、圏域振興の指針として提案するものです。

なお、圏域の構成自治体には、それぞれ総合計画などがありますが、本ビジョンは、それらの計画と直接的な関係や位置づけを持つものではありません。

●中海・宍道湖・大山圏域の構成市

中海・宍道湖・大山圏域とは、米子市・境港市・松江市・出雲市・安来市の5市に、オブザーバーとして大山圏域（鳥取県西部7町村）を加えたエリアです。

●中海・宍道湖・大山圏域の特徴

本圏域は、全国で5番目に大きい湖「中海」と、7番目に大きい湖「宍道湖」、中国地方の最高峰「大山」を有しています。この圏域には、ラムサール条約登録湿地や国立公園など豊かな自然環境と、神話の時代から連綿と続く歴史・文化も数多く残っており、恵まれた生活環境であるとともに、観光資源も豊富な地域といえます。さらに、特色ある産業、医療、福祉施設が集積しており、充実した都市機能をあわせ持った山陰の中核的な都市圏として発展してきました。

また、米子鬼太郎空港とソウル仁川空港を結ぶ国際定期便に加え、境港市と韓国（東海市）、ロシア（ウラジオストク市）を結ぶ環日本海国際フェリーが就航したことにより、今後は韓国、ロシア、さらにはシベリア鉄道を介して欧州を視野に入れた国際物流の拠点として、北東アジアへのゲートウェイ（玄関口）となりうる高い潜在力を有しています。

松江市 ～水と緑、歴史と文化を大切にすまち～



松江市は、中海、宍道湖、日本海に囲まれた水の都であり、神話の舞台と伝わる地や、松江城を中心に城下町風情が残る、自然と歴史が豊かなまちです。文豪小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は著書「知られぬ日本の面影」で、松江の風景などを広く世界に紹介しており、京都・奈良と並ぶ「国際文化観光都市」でもあります。諸手船神事やホーランエンヤなどの神事や、ユネスコ無形文化遺産「佐陀神能」が地域で大切に受け継がれており、また松江藩7代藩主松平不昧公により広められた茶の湯文化は、今なお市民生活に息づいています。



境港市 ～さかなと鬼太郎のまち～



境港市は、カニの水揚げ日本一の「境漁港」のほか、北東アジアゲートウェイ機能を有し、圏域における物流・人流の拠点である「日本海側拠点港・境港」、韓国ソウルへの国際定期便が就航する「米子鬼太郎空港」といった海と空の港を有することから、圏域をはじめ西日本と海外を結ぶ交流拠点となっています。近年、全国的な観光地として定着した「水木しげるロード」は、年間300万人の観光客が訪れる圏域屈指の人気スポットとなっています。また、全国的にも大変貴重な「伯州綿」を次の世代に継承していこうとする取り組みが始まっています。

出雲市 ～げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち～



古事記や出雲国風土記には、出雲を舞台とする数多くの神話が記載されており、出雲大社をはじめとする神話の國を象徴する歴史・文化遺産に、全国から多くの観光客が訪れます。島根県内随一の農業地帯であるとともに、製造品出荷額は島根県全体の約4割を占め、各産業がバランスよく調和した都市です。

また、高度医療機関が集積し、出雲縁結び空港など交通拠点としての機能も備えるとともに、特別天然記念物トキの分散飼育地及び国内最大級の風力発電所は環境保全のシンボルとなっています。

米子市 ～自然と人が共生する にぎわいのまち～



米子市は白砂青松の弓ヶ浜半島、中国地方随一の秀峰大山の四季折々の雄姿と山麓から湧き出る名水に恵まれた自然豊かな土地であるとともに、明治時代からつづく鉄道網の拠点であり、現在でも米子自動車道、米子鬼太郎空港を擁する山陰の交通の要衝です。また、古くから「山陰の商都」と称される商業の町で、新しいものを積極的に受け入れる進取の気質にあふれ、交流により発展してきた、開放的で活気あふれる都市です。特産の白ネギは西日本一の出荷量を誇っています。

安来市 ～安来節とハガネのまち～



安来市は、古くから中国山地で産出される良質の和鉄の集散地として栄えました。現在もその流れをくむ日立金属(株)安来工場があり、協力会社や取引企業など金属関連製造業の集積があります。また、市の南部は中国山地に連なる豊かな緑に覆われ、市域を流れる飯梨川・伯太川両河川は優れた農地を育んでいます。さらに「どじょうすくい踊り」で有名な民謡『安来節』をはじめとする伝統芸能など多彩な文化を有しています。

大山圏域 (鳥取県西部7町村) オブザーバー

大山圏域は、山地の多い地形ながら三国山を源流に、大山の麓を経て美保湾に注ぐ日野川流域に平野が形成されています。大国主命の古事に由来する多くの史跡・地名や、米子市に連なる日本最大級の弥生集落遺跡・妻木晩田遺跡などが示すように、古来より人々が生活を営む場でした。そして、大山は西日本最大のブナ林や日本有数の水資源を誇り、質の高い農畜産物・果樹などの栽培も盛んです。また、その雄大な景観とともに歴史・文化資産的にみても貴重であり、スキー場や登山道・散策コースのほかや神社などの神社仏閣や名所旧跡、山麓のリゾート施設など、観光資源も豊富です。



圏域発展に向けた基本方向

圏域の特徴

- **自然** ……(中海・宍道湖、大山に代表される豊かな自然)
- **歴史・文化** ……(古代神話の時代からの歴史的一体性とむすびつき)
- **人口** ……(日本海側の主要都市圏で第3位の人口集積)
- **地域のつながり・市民参画** ……(地縁団体数やボランティア活動率は全国上位)
- **産業** ……(事業所・従業者数は日本海側都市圏で第4位)
〔総生産は山陰両県の約5割を占める〕
- **観光** ……(圏域内観光入込客数鳥取県内の約5割、島根県内の7割を占める)
- **医療・福祉** ……(施設や医師の集積は全国でも高水準)
- **高等教育** ……(山陰両県の高等教育機関が集積)
- **交通ネットワーク** ……(圏域内外へ陸路・空路・海路の交通ネットワークを形成)

圏域の優位性

- 豊富な観光資源
- 自然環境
- 歴史・文化
- 産業集積
- 空港・港湾
- 北東アジアとの近接性

圏域の課題

- 一体的な観光振興
- 産業連携
- 交通ネットワークの整備
- 広域連携・官民協働
- 循環型社会づくり

圏域の将来的な発展方向に関する要望・意向

- 豊かな歴史や自然環境と都市機能の調和する圏域
- 北東アジアなど世界につながる圏域
- 圏域特性や資源を活かし、世界に通用するブランド価値を創る圏域
- 圏域住民が毎日を安心して暮らすことのできる圏域

●基本方向設定にあたっての視点

ビジョンの基本方向設定にあたっては、圏域の特徴、住民が考える圏域の優位性と課題、さらには圏域の将来的な発展方向に関する要望・意向から見えてくるすがたを重視し、以下の3つの視点から検討を行いました。

(1) 本圏域の優位性を活かす視点

圏域全体の特徴と優位性を活かす視点から基本方向を設定します。

(2) 圏域の有機的な連携による圏域の定住環境の充実・活力向上の視点

圏域共通の政策課題を踏まえ、構成自治体の優位性や特性を有機的につなぐことで、圏域全体の定住環境の充実と活力の向上をめざす視点から基本方向を設定します。

(3) 圏域が一体となり、力を合わせて目標を実現する視点

圏域に暮らす住民、各種団体、事業者が目標を共有し、力をあわせて成果達成をめざす、協働の視点から基本方向を設定します。

●基本方向

- 基本方向 **1** **活力にあふれる圏域づくり** [産業振興] 5p→
1. 力強い産業圏域の形成
2. 圏域内外を結ぶ交通ネットワークの充実
3. 北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用
- 基本方向 **2** **訪ねてみたい圏域づくり** [観光振興] 6p→
1. 圏域観光の魅力向上
2. 圏域観光ネットワークの形成
3. インバウンド観光の推進
4. 圏域観光体制の充実
- 基本方向 **3** **住みたくなる圏域づくり** [環境の充実] 7p→
1. 自然環境の保全と活用
2. 歴史・文化の継承と活用
3. 安心して暮らすことのできる環境の充実
- 基本方向 **4** **ともに歩む圏域づくり** [連携と協働] 8p→
1. 人材確保・育成の体制づくり
2. 人材・活動団体データベースの共有と活用
3. 情報共有と連携

将来像

水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から 未来へつなげる



基本方向

1 活力にあふれる圏域づくり 【産業振興】

本圏域の優れた都市基盤・特色ある農林水産業や製造業の産業基盤を活かすとともに、高速道路をはじめとする社会基盤整備の機会を捉え、圏域内外との交流と、広範囲での経済活動機会を創出することにより、活力にあふれる圏域づくりをめざします。

取り組みの方向

1. 力強い産業圏域の形成

- 圏域内の製造業の集積を活かした産業振興と広域的な産業間連携
- 農林水産業の振興に向けた事業連携や食品製造業や観光との連携強化
- 異分野・異業種連携、産学官連携の推進等による新産業の創出

2. 圏域内外を結ぶ交通ネットワークの充実

- 圏域産業の振興を図る上で必要となる圏域内交通ネットワークの充実
- 圏域産業の振興を図る上で必要となる他の都市圏との交通ネットワークの充実

3. 北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用

- 空と海の国際定期航路が就航する北東アジアへのゲートウェイ機能の活用による圏域内産業への経済効果創出を図る取り組みの推進
- 北東アジアに向けた日本海側の物流拠点である境港の整備促進及び利用拡大



基本方向

2 訪ねてみたい圏域づくり 【観光振興】

本圏域の観光資源を活かし、相互の連携と一体的な観光振興体制づくり、インバウンド対策の充実、周遊・ネットワークの仕組みづくりなどに取り組むこととし、一体性のある観光・交流活動の展開により、国内外に対して、魅力に溢れ、訪ねてみたい圏域づくりをめざします。

取り組みの方向

1. 圏域観光の魅力向上

- 圏域観光関連調査結果に基づく一体的な観光振興の推進
- 魅力的で集客力のある周遊旅行商品の開発促進
- 一体的な観光情報の発信



2. 圏域観光ネットワークの形成

- 周遊の魅力具备了圏域観光ネットワークの形成促進
- 広域交通網の整備を見据えた圏域外空港からの誘客活動の推進



3. インバウンド観光の推進

- 外国人観光客の誘致と北東アジア観光ネットワークの形成促進
- 国際チャーター便就航などインバウンド観光の支援
- 外国人観光客受入環境の充実

4. 圏域観光体制の充実

- 広域観光振興に取り組む団体との情報共有の促進や効果的な連携体制の充実





基本方向

3 住みたくなる圏域づくり

【環境の充実】

中海・宍道湖・大山に代表される豊かな自然環境と、利便性が高く安心して暮らすことのできる、本圏域の優れた暮らしの環境を活かし、心豊かな生活と経済活動が調和した、住みたくなる圏域づくりをめざします。

取り組みの方向

1. 自然環境の保全と活用

- 環境の保全・利活用の促進と汽水域の水環境改善に向けた関係機関との連携、活動促進と活動支援
- 森林環境の保全と利活用の促進と都市との交流拠点づくり
- 自然と調和した環境に優しい低炭素社会の実現に向けた取り組みの推進
- 自然環境保全に取り組む団体との連携の促進による環境教育の充実や意識の醸成

2. 歴史・文化の継承と活用

- 圏域の歴史的一体性や文化的な結びつきの再認識と圏域各地の有形・無形の文化の保存と継承
- 圏域の魅力向上に向けた文化的資源の多分野での活用の促進

3. 安心して暮らすことのできる環境の充実

- 圏域が一体となった広域的な防災体制の構築に向けた取り組みの推進
- 本圏域の暮らしやすさ、生活環境の豊かさに関する情報発信



基本方向

4 ともに歩む圏域づくり

【連携と協働】

本圏域の企業活動や行政における交流・広域連携の素地、NPO・ボランティア団体などの社会活動・地域活動の盛んな地域性を活かし、本圏域が抱える課題に対して、情報共有と連携、相互補完を進め、ともに歩む圏域づくりをめざします。

取り組みの方向

1. 人材確保・育成の体制づくり

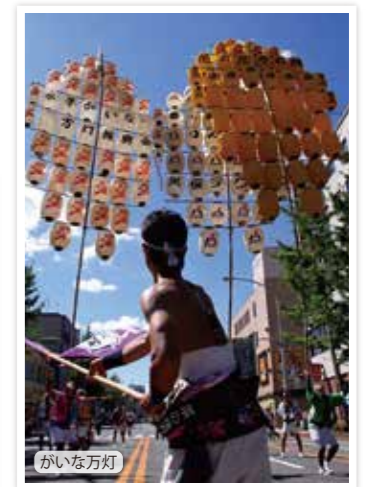
- 情報共有や関連事業の共同開催による、優れた人材の確保と育成
- 圏域を担う人材が交流し、さまざまな分野で活躍できる仕組みづくりの推進

2. 人材・活動団体データベースの共有と活用

- 圏域内企業・団体・担い手人材の把握と成果の公表によるマッチング等の活動活性化の促進

3. 情報共有と連携

- 活動情報の共有化と連携による圏域振興に取り組む各主体が活動しやすい圏域づくり





圏域の将来像

ビジョンの基本方向を展開することにより、以下のような圏域の将来像の実現をめざします。

水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から 未来へつなげる

私たちが暮らす中海・宍道湖・大山圏域には、
ともに鳥取・島根の県境(船通山と三国山)にその源を発し、西から東に向けて斐伊川(宍道湖・中海)、
東に日野川といった豊かな水の流れがあり、日本海(大社湾や美保湾)へと注いでいます。
また、南は大山をはじめとする中国山地の山々が連なり、北の島根半島とともに、豊かな緑に覆われています。
自然環境が豊かなこの圏域は、
八岐大蛇や国引き神話、国譲り神話など数多くの日本神話の舞台ともなりました。

この圏域に暮らす人々は、日本神話の時代から、この豊かな水と緑に育まれながら、
圏域内だけでなく国内・対岸諸国との人と人とのつながりを通して
新しい文化と技術を創造し、この圏域の発展につなげてきました。

「水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から 未来へつなげる」

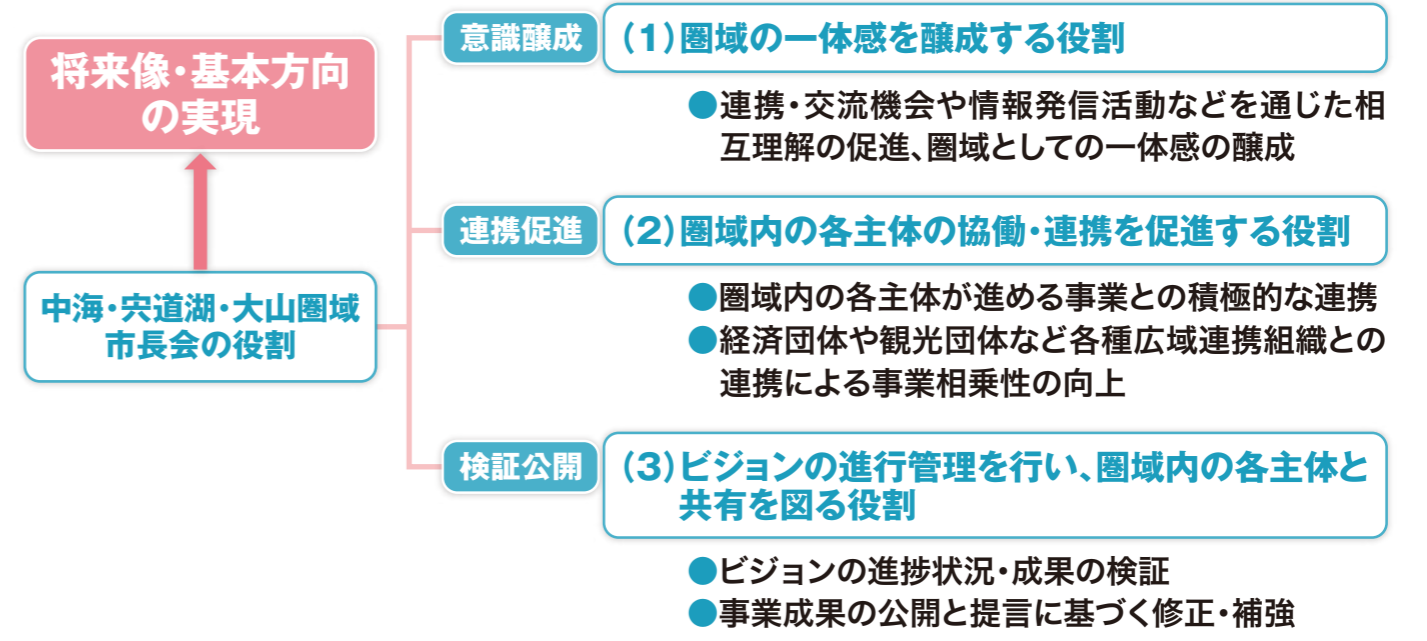
というこの圏域の将来像には、

これまでもさまざまなつながりによって新たなものが生み出されてきたように、
今後もこの圏域が一体となって、神話に彩られた歴史・文化を継承しながら、
いっそうの交流と連携を育むことにより、圏域の個性にさらに磨きをかけ、
新しい産業や文化を創造し、人の元気と魅力にあふれる圏域の未来へつなげていこうという思いを込めました。

ビジョンの推進にあたって

～中海・宍道湖・大山圏域市長会の担う役割

本市長会は、ビジョンに掲げる将来像の実現に向けて、圏域が一体となって取り組むことで実施が可能となる事業や圏域を活性化する効果が見込まれる事業について、「ともに考え、連携する市長会」をめざし、以下の役割を担います。



●ビジョンの期間

本ビジョンは、圏域振興の方向性と将来像の共有を主目的としていることから、ビジョンの期間は示さず、圏域を取り巻く環境変化や構成自治体の政策推進の状況などを踏まえ、適宜必要な修正・補強を行うことで、その有効性を確保していきます。

また、定期的に将来像実現に向けた取り組みの進捗状況についても多面的に検証し、その有効性を補完していきます。

だんだんサミット (中海・宍道湖・大山圏域市長会の愛称)
 「だんだん」はこの地方の方言で「ありがとう」という意味です。この言葉は、圏域全体をイメージしやすく、親しみやすさがあります。
 また、みんながお互いに「感謝」の気持ちをもって連携し、圏域の発展をめざそうという期待が込められています。

編集・発行
中海・宍道湖・大山圏域市長会
 中海・宍道湖・大山圏域市長会ホームページ
<http://www.nakaumi.jp>